

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスあんSchoolホップ		
○保護者評価実施期間	令和8年2月3日		～ 令和8年 2月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25名	(回答者数) 15名
○従業者評価実施期間	令和8年 3月10日		～ 令和8年 3月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和年 3月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげています。	保護者に事業所での様子が正確に伝わるように、ICTを活用し、言葉だけでは伝わりにくい支援場面については写真等を用いて記録・共有を行なっています。また、当日中(19時まで)に情報共有を行うことで、敏速かつ安心感のある支援体制を整えています。	保護者が安心して記録を確認できるように、個別支援計画に沿った内容をわかりやすく具体的に記載できることを徹底します。また、記録の質にばらつきのないよう、記録基準の統一や職員間での確認体制を整備し、属人化を防ぎながら継続的な質の向上を図っていきます。
2	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っています。	18歳までに自律・主体性を育むことを目的とし、日々の遊びや活動、行事の企画において、児童が自ら選択・決定できる機会を意図的に設けています。具体的には、活動内容や事業所内の環境づくりに関して児童同士で意見を出し合い、選択肢の提示や段階的な支援を行いながら、個々の発達段階に応じた自己決定ができるよう支援を行っています。	SM社会生活能力検査の実施が不定期となっている現状を踏まえ、実施時期・担当者・評価手順を明確にし、定期的に評価を行う仕組みを構築します。また、検査結果を個別支援計画や支援記録と連動させ、児童の成長を継続的に把握・分析することで、より効果的な支援につなげていきます。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	自立支援協議会等への継続的かつ積極的な参加が十分に行えていない状況	人員の入れ替えや、業務調整の影響により、自立支援協議会の参加体制が安定していない状況にあります。一方で、グループ内では参加体制が整いつつあり、医療的ケア児部会、相談支援部会に参加できている状態です。	自立支援協議会への参加を組織的に推進するため、参加担当者および役割分担を明確化し、計画的に参加できる体制を整備します。また、参加後は事業所内での情報共有を徹底し、地域の課題の把握や関係機関との連携強化に繋げてまいります。
2	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営が十分に行っていない状況。	正月行事等において地域住民を招く機会はあるものの、継続的な関係構築や新たな地域とのつながりづくりには至っていない状況です。また、地域との連携方法や関わり方が明確に定まっておらず、職員個々の対応に依存しているため、安定した交流の機会の創出が難しい状況となっています。	地域に開かれた事業所運営を推進するため、年間行事計画の中に地域交流の機会を位置付け、計画的に地域住民を招く体制を整備します。また、自治会や地域関係機関との連携を強化し、事前周知や参加しやすい仕組みづくりを行います。さらに、交流後は振り返りを行い、継続的な関係構築と地域資源の活用につなげていきます。
3			